



年頭挨拶

理事長 加納 啓良

2026（令和8）年、明けましておめでとうございます。中国起源の干支（えと）によれば今年は「丙午」（ヘイゴ）すなわち「ひのえうま」の年に当たります。「丙」は太陽のような明るさや情熱、強い意志を象徴し、「午」は馬のことで行動力やスピード、エネルギーを意味します。力強い躍動の年ということになりますが、『広辞苑』によればこの年には火災が多く、またこの年生まれの女性は夫を殺すという空恐ろしい迷信もあるそうです。

干支の後半にあたる十二支の暦法はベトナムやタイでも根づいており、イスラム教徒が人口の大多数を占めるインドネシアでも華人社会の風習として広く認知されています。ただしベトナムとタイでは、丑年は牛ではなく水牛、卯年は兔ではなく猫

の年とされているようです。

十二支に対応する動物の名前はネズミ、ウシ、トラなどすべて訓読みできますが、ウマだけは植物のウメ（梅）と同じく、訓読みと言っても元は中国語起源です。馬が古代（たぶん4世紀後半）にアジア大陸（たぶん朝鮮半島）から伝來したことを示しています。しかし大型の動力船などない時代に、誰がどのように馬を舟に乗せて波の荒い海を渡ったのか、古代史の大きな謎に違いありません。



〈プロモ山にて〉

タマサート大学訪問ツアー

2025年10月24日から3日間、奥山寿子副理事長を団長として17名がタマサート大学を訪問しました。

24日、タイ国際空港で集合してバスでキャンパスに向かい、教養学部長、タサニー先生、シリワン先生、Iメイト学生など20名以上の皆さんの歓迎を受けました。タイ料理をいただきながら学生の音楽パフォーマンスを聞き、ゲームを楽しみ、タイダンスを教えてもらってみんなで踊りました。

翌25日はバスでランシットキャンパス見学後、ターカロン市に到着。会場では市長をはじめ市民の皆さんが民族衣装で整列してお出迎えくださいり、フォーマルな歓迎式典に私達は緊張して会場に入りました。

市長の歓迎のお言葉の後、奥山理事がお礼の言葉を述べ交流会が始まりました。交流コーディネーター千歩和人会員が日本文化と日本の高齢者の実態を紹介、ターカロン市からも同様の紹介がありました。その後タイの華麗な民族舞踊の披露があり、日本側からはラジオ体操、「上を向いて歩こう」の合唱、最後は会場の全員でタイの踊りを輪になって踊り、一気に緊張がほぐれました。

そして「風呂敷・ハーブ吸入剤づくり」と「折り紙・奉納用コイン包み」のグループに分かれて交流し、あつという間に時は流

れました。ランチは地元の皆さんのお手作りの豪華なタイ料理を堪能しました。今回の訪問ではタークロン市の皆さんから大歓待を受けて、訪問団一同は言葉に尽くせぬ感動を味わいました。午後はフューチャーパーク見学、果物卸売市場で初めて目にする珍しい果物を試食、夕食はタイスキ。盛りだくさんの一日でした。

26日はバスでカンチャナブリー県に向かい、映画で有名なクウェー川鉄橋を渡り、スカイウォーク、テーウアサンカラーム王室寺院を見学、昼食後はカンチャナブリー・ラチャパット大学文化センターを見学後、ムアンシン遺跡公園を訪りました。Iメイト学生はタークロン市訪問では通訳を担当、26日の観光にも14名が同行してくれて、中身の濃い充実した訪問ツアーは終了しました。

企画、受け入れ準備をしてくださったタサニー先生、シリワン先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

（理事 吉海 正子）

忘れられない3日間

私は去年1年間ずっと美智さんとメールで連絡を取っていましたが、8月からはZoomで話すようになりました。画面越しでも顔を見ながら話せたので、とても安心しました。そして10月に、



美智さんはタイに来てくださいました。最初は少し緊張しましたが、24日から26日まで一緒にさまざまな活動ができて、本当に楽しく、良い思い出になりました。タマサート大学でバナナの葉で容器を使った活動をしたり、カンチャナブリーへ旅行に行ったり、ケロロのレストランで一緒に食事をしたりしました。

美智さんとさまざまな話をするようになってから、私にとってリスニングも会話力もより上達しました。さらに周りの皆さんもたくさん助けてくださいり、心から感謝しています。

（タマサート大学2年生 アーシラポット・スックシー

Iメイトは島村 美智さん）

素晴らしい共有

タマサート大学訪問は、卒業後久しぶりに先生方や在学中の学生の皆さんと交流できた貴重な機会となりました。特に、熱心でオープンマインドなアジ風の仲間と初めてタイを訪れ、異文化交流を深められたことは大きな学びでした。

初日は、花や葉を用いた装飾品作りや伝統的な遊びを通じて、タイ文化の豊かさに触れました。二日目は、美しいキャンバスで学生たちと対話し、大都市での競争を勝ち抜くべく語学や国際感覚を磨く彼らの志に、十数年前に故郷を離れ異国で研鑽を積んだ自身の経験を重ね、深い共感とともに心から応援しました。

また、地方政府との接見では、高齢化社会などの共通課題についても議論を交わし、互いに学び合い補い合う重要性を痛感しました。この素晴らしい思い出を大切に、今後も活動に積極的に参加したいと考えています。

（正会員 孫 蔚瓊）



西日本交流会 in 神戸

2025年11月1日秋晴れの下、西日本交流会が神戸で開かれました。地元関西に加え東京や名古屋からの留学生12人と各地の会員24人が参加しました。留学生は数か月前に来日したばかり。多くは電車での長距離移動が未経験でしたが、皆さん無事に神戸に集合できました。神戸は30年前に阪神淡路大震災を経験し、海外からの留学生も被災した土地です。交流会午前のプログラムは大震災を契機に設立された「人と防災未来センター」の見学です。まず、元県庁職員の「震災語り部」から当時の現場の実体験を伺いました。次いで震災直後の状況を音と映像で再現したシアターで震災を追体験し、数多くの展示品を見て解説ボランティアの説明を聞き震災の残したものに触れ、災害の起こる仕組みや防災の必要性について学びました。



〈36人の笑顔があふれます〉

感動・愉快・連結

神戸への旅で残った気持ちは感動・愉快・連結の三つです。

一つ目は「感動」で、神戸地震のイメージを見た時は涙が溢れるほど痛みを感じました。命を大切にする思いが、自然にあふれ、現在の重みを感じました。今日の一時を過ごす中で、みんなと交流の幸せな記憶を作りたい。



そこで、「愉快」という二つ目が生まれました。一緒に美味しい昼ごはんを食べたり、関西弁を身につけたり、留学の新生活についての色々な考えをシェアしたりしたのは、「楽しい」という気分だけではなく記憶の中で心情に響きました。

最後は「連結」です。他のメンバーと繋がったのは幸せです。この交流は、どんなに小さくても、相手または自分の心の中の変化が生まれその日を導いてくれました。この気持ちのおかげで、その日から自分は変わり続けています。

(ハノイ貿易大学OB 名古屋大学研究生 ゲエン・ダン・ソン)

アジ風奨学生リポート

アジ風の活動を通じて多文化共生の姿勢を学びました

大学3年生の初めにIメイトの交流活動へ参加したことが、私とアジ風とのご縁の始まりでした。そこで林孝男さん(*P3参照)とつながり、会話練習やスピーチコンテストへの挑戦、さらには神戸大学大学院受験の準備まで、温かいご支援をいただきました。また、おしゃべりの場や交流活動を通じて多くの刺激を受け、学生コーディネーターとして企画や運営に関わる経験も得ることができました。こうしたご縁によりアジ風の奨学生を頂けたことに、今も深く感謝しております。

大学院では国際経済学を専攻し、RCEP(地域的な包括的経済連携協定)がベトナムの主要輸出品である水産物に与える影響について研究しました。特に、最大の輸出先である米国の関税政策が不安定化する背景において、米国向け輸出の減少分をRCEP加盟国がどの程度吸収できるのかを分析しました。モデル構築と予測の計算を通じて、日本や韓国が代替市場として有力な受け皿とな

午後は留学生と会員の混成グループ対抗で、関西在住のOGや会員有志がこの日のために準備した手作りのプログラムを楽しみました。まずは「ゲームで楽しく



〈これなんでしょう？全員真剣です〉

コーナー」で、「関西弁教室」です。留学生たちは関西弁の意味を学び、本場の発音を皆で大きな声で練習しました。これは関西の留学生に大いに役だつことでしょう！続いてクイズ「これなんでしょう」。ちょっと見ただけでは用途が想像できない防災グッズの写真を見て、使い道を早く正解したグループにポイントが付与されます。最後にポイントの多いチームにはご褒美が出ます。どのチームも頭を振り絞って答えを考えました。「知っておこうコーナー」では、聞いたことはあっても利用方法を知らない人が多い「災害ハザードマップ」や「防災伝言ダイアル」について学び、「体験しようコーナー」では、全員で「新聞スリッパ」づくりに取り組みました。

最後に、神戸市役所の展望ロビーに移動し、神戸の町と港の景色を眺め、震災からの復興を果たした街の姿を確かめて交流の一日を終えました。

(理事 武田 高)

西日本交流会感想

午前10時JR西日本の灘駅集合、神戸交流会に参加しました。

最初に訪問したのは「人と防災未来センター」。シアターでは阪神・淡路大震災という都市型大地震が発生した瞬間のすさまじさを体験、恐怖を感じました。



JICA関西へ移動して交流会。グループに分かれで関西弁や防災のクイズ大会、対抗戦で大いに盛り上りました。お笑い人気からか、留学生の皆さんもよく関西の言葉をご存じですね。でもさすがに関西生まれの関西弁は違いました。聞いて分かるけどイントネーションは難しい！

その後、三宮へ移動して神戸市庁舎24階展望ロビーで神戸市街を見渡しました。30年を経て大震災の爪あとはすっかり消え、明日への希望が満ちている気がしました。留学生の皆さんも多数参加して、留学生活の思い出の一日になったと思います。

(正会員 大橋 典子)

る可能性が示されました。得られた結果は今後の政策検討において多くの示唆を含むものとなりました。



研究と並行して就職活動も進め、林さんの温かいご助言に支えられながら、今年4月より東京のIT企業で社会人生活を始めることができました。アジ風の活動を通じて、私は単に日本語力だけでなく、多文化の中で互いを尊重しながら共に生きる多文化共生の姿勢を学びました。これらの経験は、これから新しい環境で働く上で必ず役に立つと強く思っています。

将来的には、IT分野で培った経験を基盤に、まずは日越両国をつなぐ架け橋としての役割を果たし、さらにその先にある国際的な相互理解と協力の促進にも貢献していきたいと考えています。そして、アジ風の理念である「アジアの平和、ひいては世界の平和への貢献」に、すこしでも貢献できるよう、今後も努力を重ねてまいります。

(第5回奨学生 賛助会員 ド・フォン・アイン)



タマサート大学生の声 I メイトの皆さんへ ❤

*一緒に旅行できて本当に幸せでした。たくさん笑って、素敵なお思い出ができて心から感謝しています。(ミユウ)

*タイへの訪問、有難うございます。また、ほかの活動も参加したいです。(ガーン)

*みなさんと色々なことを話してとても嬉しかったです。(ニーン)

*たくさんのことを教えてくれてありがとうございます。みちゃんと話したのが幸せになりますね！(ベンツ)



*先生、先輩、友達といっしょに活動したり、いろいろなことを体験したりして、本当にいい思い出になりました。新メンバーなので、まだ分からぬことが一杯あります、これからがんばります！(パイ)

*日本語が分からぬ私に、皆はとても親切でした。有難うございました。原谷洋美さん、短歌の本を有難うございます。(フラワー)

*バスの旅で、三木さんと色々なトピックを話して勉強になりました。(タワン)

*色々なことを話したり一緒に遊んだりして嬉しかったです。また会って良い時間を過ごしましょう。(ハーブ)

*新しい経験ができる、交流ができる良かったですね。 ❤★ (オパール)

* I メイトの皆さんはとても親切、新しい文化もたくさん勉強になりました。(シェンソロップ)

*みんなと話したり一緒にごはんを食べたりするのは、すばらしい体験です。

追伸: 正子さんはとてもやさしいです。(ソンチャン・ティーン)

高尾の秋を歩く

小春日和の柔らかな陽気に包まれ、ベトナムからの5名を含む17名の皆さんと南高尾山稜を歩き、穏やかな気持ちで自然を味わうことができました。

普段は一人で山を歩くことが多いため、色づく木々を眺めながら交わす会話や励まし合いが新鮮で、7時間にわたる行程もあつという間に感じられました。尾根から望む錦秋の山々や冠雪の富士山の景色も楽しめ、心も体も軽やかになりました。

89号に関してのアンケート回答をありがとうございました。14名の回答には「アジ風活動を知るには重要なメディア」と新入会員さんのコメントや「現地学生との交流が基本」と原初の姿勢の提示、「何処まで学生に届けられているか」との疑問もありました。90号でも再度アンケートを実施し、91号にて詳細報告を致します。ご協力をよろしくお願ひいたします。(アジ風編集委員)

会員紹介

林 孝男さん

林孝男さんは京都市室町の呉服問屋「辻和」の四男として生まれました。野球が大好きなお父様の影響でお兄様達は皆野球をされました。しかし次男がデッドボールを頭に受けて亡くなるという不幸があり、林さんは野球をさせて貰えなかったそうです。

高校は丹波市の名門進学校柏原高校(アジ風の設立者の一人の上高子名誉顧問他多くの方々の出身校)に進まれ、アナウンサーを目指して放送研究部の活動を続けられましたが、自らの関西訛りをどうしても克服することができず、「放送」から「法曹」に進路を変えて、明治大学の法学部に進まれました。しかし弁護士への道は進まず、まだ出来て間もない日本IBMに入社されました。

英語が不得意だった林さんの目の前に背の高さほどにもなる英語のマニュアルを積み上げられ、血反吐を吐くような苦労をして克服し、大阪と東京をベースに営業を担当されました。その間ニューヨークやケンタッキーで新製品を学んで、国内営業に

思い出の交流会

今回の神戸交流会は、私にとって本当に忘れられない思い出となりました。I メイトの皆さんと一緒に、たくさんの興味深い場所を訪れ、貴重な時間を過ごすことができました。

まず、阪神・淡路大震災について学び、当時の被害の様子や人々の苦しみを実感できたことは、とても大きな学びになりました。ただ教科書で読むだけではわからない「現実の重み」を肌で感じ、自然災害の恐ろしさや命の大切さについて、改めて考えるきっかけになりました。

その後は、皆さんと楽しく会話したり、ゲームで盛り上がりたりと、和やかで笑顔が絶えない時間を過ごしました。特に、展望台から神戸の街並みを一望した瞬間はとても感動的で、港町としての神戸の魅力や美しさをじっくり味わうことができました。



もともと私は神戸が好きでしたが、今回の交流を通じて、さらに神戸や日本そのものへの愛着が強くなりました。最後に解散する時には、親切で優しいI メイトのメンバーが私をパンケーキに誘ってくださり、一緒に美味しいデザートを食べながら色々なお話をできました。その時間は、私にとってとても温かく、幸せな思い出になりました。

この一日は、ただの観光ではなく、人とのつながりや心の交流を深く感じられる特別な体験でした。I メイトの皆さんと一緒に過ごせて本当に良かったです。心から感謝しています。ありがとうございました。

(貿易大学2年生 大阪大学留学)

I メイトは西尾のぞみさん フイン・キム・ジャ・ハン)

下山後の懇親会では歩き切った達成感を皆で分かち合い、和やかに盛り上がりました。

富平茂さん、奥山正昭さんのおかげで安心して歩けたことにも心から感謝しています。(正会員 高橋 透)



〈高橋さんは右から3人目〉

フィードバックすると共に東南アジア各国での販売にいそしました。

そして1992年にはIBMを辞め、IBMでの経験を元に企業のヒト・モノ・カネ・情報などを一元管理し業務の効率化を図るために総合ソフトウェアであるERP(Enterprise Resource Planning)の開発、販売会社を設立し、20年間社長として活躍されました。



〈カラオケで熱唱する林さん〉

2013年には全てのビジネス活動から身を引き、今はアジ風の他に、好きなゴルフや仲間達とのカラオケなど現役時代よりももっと忙しく、歳をとる暇がないのだそうです。

これまでに25人のI メイトと交流を続けておられます。今後は複数のメンバーとオンライン交流をする試みとして、まずは会員2名、I メイト学生2名による4名交流を試行されるそうです。新しい交流の試みの成果が楽しみです。

インタビュー: 園田 成和



みんなで賑やかに祝うハノイ貿易大学卒業式

2025年12月16日におこなわれたハノイ貿易大学の卒業式に参列してきました。

私のIメイトのPHUM DO MOKLAM(ラム)さんより卒業式に参列して欲しいという連絡をいただいたのは、猛暑の最中の8月中旬でした。いつものメール交流の際、ラムさんから成績「優秀」での卒業である事と、大学4年間自分なりに精一杯努力してきて



<ラムさんを囲んで

2人のお母さん>

とても嬉しい気持ちでいっぱいであり、私にも是非出席してもらえたる素晴らしい思い出になると、お誘いをいただきました。ラムさんの前途ある未来に祝福をおくりたく参列を決めました。

ベトナムでは大学の卒業式は人生において大事な節目の式典であり、家族や親族・友人達から祝福される日なのだと感じたのは、当日早朝から会場前に集まった卒業生を囲む大勢の人々の誇らしい笑顔でした。卒業式には卒業生本人



<コンサートのような卒業式>

と2人までしか入場できないため、私はお父様の代理としてお母様と共に参列させていただきました。

卒業生全員2000名が赤と黒のアカデミックガウンを着てカッコよく、壇上ではバンド演奏やダンスが披露され、スクリーンに卒業生の写真と名前が投影される度に学生達の歓声があがつて盛り上がり!日本のような堅苦しい感じではなく卒業生が楽しんでいるのが印象的で、これから社会に出ていく若者のパワーを感じ感動して泣きそうになりました。

卒業式後はご両親ご親族と友人達も交えての大宴会に主人と参加し、とても楽しく有意義な一日でした。ラムさんは現在大学院で日本語専攻の修士課程に進み日本語教師を目指しています。Iメイト交流を通じラムさんやご家族と絆を深めることができ、これからも日本の母として末永く見守ってまいりたいと思っております。

(正会員 山田 琴恵)

追悼 元理事の中村一郎さんは、長いご闘病の末、2025年8月4日に77歳でご逝去されました

ここからご冥福をお祈り申し上げます。中村さんと深く豊かな交流を続けた2人のIメイトから、追悼文が寄せられました。

夏と浜松

2年前の夏休みに浜松で中村様に会いました。10年ぶりにお目にかかる中村様は、記憶の中のままに愉快でジェントルな姿で浜松のあちこちを紹介してくださいました。

メールの中でも故郷への愛情を感じることがありました。おっしゃるように、浜松は静かですが活気のある美しい場所でした。翌日には、私が検索してきた観光地に遊びに行ったのですが、そこで出会う全ての店員さんの前で「ここに長く住んでいたのに、こんなに良い



中村さん >

<幸せ行き>バス停の

中村さん >

中村さん >